

第5回 胎内市総合計画策定審議会 議事要旨

1. 日時

平成28年2月2日（火）19：00～20：30

2. 場所

胎内市役所 5階501会議室

3. 出席者

【胎内市総合計画策定審議会委員】

中野友美委員、坂上タキ江委員、高橋三樹男委員、中原拓也委員、関谷浩史委員、高橋賢一委員、安城守英委員、威本悠希委員、久世秋絵委員

【事務局】

総合政策課企画政策係長、係員、計画策定支援事業者

4. 議事内容

事務局より資料に沿って説明を行った後、総合計画の策定作業の進め方及び策定方針について各委員から発言。主な発言内容は下記のとおり。

- 現在の基本理念の“自然”“人”“交流”というキーワードの中で“交流”について、“交流”には様々な意味があり、“交流”すれば良いというものではない。（フローに対して）ストックという視点も重要であると思うのだが、10年前に計画策定した際に想定していた“交流”の意味は。
- アンケートの中では、“暮らしやすいまちかどうか”という質問に対して現状肯定の意見が多い。一方、“遊ぶところが少ない”といった暮らしにくい点を答える質問は若者の視点に左右される部分が多く、年代によって傾向が異なる可能性がある。胎内市を年齢のギャップの中でどう解釈していくかが重要だと思う。後ほど属性毎のデータをいただけるということだが、現時点でどのような傾向があると考えているか。
- 施策毎に満足度と優先度でマッピングした資料3の追加資料はとても重要なものだと思うのだが、この中で満足度が高く優先度も高いというのはどういう理由によるものか。
- 現在の計画では全ての施策に目標値が掲載されているが、今回も全施策の目標が数値に還元されることになるのか。
- 先に話のあった基本方針の内容だが、近隣の計画を見ても変わり映えのしない文言が並んでおり、変更することを考えても良いのではないか。
- 全体の理念は網羅的な内容であったとしても、例えば村上市のように具体の将来像をその下に設定して胎内市の特徴を目立たせる、攻めの姿勢を表すことを考えることもできるのではないか。
- 次回は細かな方針を提案して、あれもこれもと議論が拡散しないような進め方となるようにしてほしい。